

学校法人エリザベト音楽大学

2017(平成 29)年度

2017(平成 29)年 4 月 1 日から 2018(平成 30)年 3 月 31 日まで

事業報告書

1. 法人の概要

①建学の精神・教育理念・行動標語

【建学の精神】

大学の究極目的は、人間社会全体の形成であり、従って、個人の完成である。芸術は、人格の開発と表現のためにも、神との一致の道を切り開く人間相互の一致のための手段としても重要であることから、本大学は、人格完成を芸術、特に音楽の観点から強調するのである。

それゆえ、深く音楽芸術に関する理論及び技能を教授研究するとともに、広く知識を授け、良識ある音楽家を育成することを旨とする。

1. 本大学は、カトリシズムの精神に基づいて創立され、かつそれを指導原理としている。
2. 本大学は、カトリック・イエズス会の教育方針に従い、一般教育科目及び外国語科目にも力を注いでいる。
3. 本大学は、すべての人々は兄弟・姉妹であるという精神から、家族的雰囲気をもととする学生 1 人 1 人とのきずなを教育の礎としている。
4. 本大学は、一般音楽の他に、グレゴリアン・チャント、ポリフォニー及び現代宗教音楽等の教授・研究において他にみない特色を有している。
5. 本大学は、国際的な友好関係のもとに維持されており、日本古来の文化と西欧文明との融合をその究極の使命としている。
6. 本大学は、音楽芸術をとおして、神秘的観想の精神に達することを究極の教育理想としている。

【教育理念】

《 教養・実力・慈愛のある音楽家の育成 》

カトリシズム（普遍性）の精神に基づき、
幅広い教養・専門教育をとおして、
自分を高め、「他者のために生きる」人材を養成する。

音楽芸術および音楽教育に関する
理論、技能および実践の教授研究により、

真に芸術を愛し「美」の追求に真摯な人材を養成する。
平和を愛し、
地域社会および国際社会、とりわけアジア地域に
貢献する人材を養成する。

【行動標語】

音楽をとおして 私が変わり 世界を良くする人になる

②学校法人の沿革

年 月 日	沿 革
1947(昭和22)年9月	広島音楽教室開設(現エリザベト音楽大学付属音楽園)
1948(昭和23)年4月	県公認広島音楽学校開設
1950(昭和25)年1月	財団法人広島音楽学校に名称組織変更
1951(昭和26)年3月	学校法人広島芸術学園に名称組織変更
1952(昭和27)年3月	学校法人エリザベト芸術学園に名称組織変更
1952(昭和27)年4月	エリザベト音楽短期大学(2年制) 開設
1954(昭和29)年4月	宗教音楽専攻科(1年制) 設置
1959(昭和34)年4月	エリザベト短期大学と改称(音楽科3年制、宗教科2年制)
1961(昭和36)年12月	ローマ教皇庁立宗教音楽院の姉妹校となる(BMS宗教音楽士の授与認可)
1963(昭和38)年4月	学校法人エリザベト音楽大学に改称、4年制のエリザベト音楽大学昇格開設、3年制短期大学と宗教科廃止
1967(昭和42)年4月	音楽学部音楽学科宗教音楽専修を宗教音楽学科として増設 (音楽学科・宗教音楽学科の2学科編制)
1976(昭和51)年4月	音楽学部声楽学科、器楽学科増設 (音楽学科・宗教音楽学科を加えて4学科編制)
1980(昭和55)年4月	音楽専攻科(1年制) 開設
1990(平成2)年3月	音楽専攻科廃止
1990(平成2)年4月	大学院音楽研究科修士課程設置
1993(平成5)年4月	大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程設置
2001(平成13)年4月	音楽学部を改組、音楽文化学科、演奏学科開設
2003(平成15)年4月	音楽文化学科幼児音楽教育専修開設(幼稚園教職免許課程設置)
2006(平成18)年3月	音楽学科、宗教音楽学科、声楽学科、器楽学科の4学科を廃止
2011(平成23)年3月	日本高等教育評価機構から平成22年度大学機関別認証評価の認定
2017(平成29)年12月	新3号館及び既存施設(セシリアホール・1号館・本館・333教室等)改修完了
2018(平成30)年3月	日本高等教育評価機構から平成29年度大学機関別認証評価の認定

③設置学校の学部学科等学生定員・在籍学生数

当法人の設置する大学の学部学科等、学生数の状況は次のとおりです。

エリザベト音楽大学

音楽学部 (() 内は入学定員/収容定員)

音楽文化学科 (20人/90人)

演奏学科 (60人/250人)

合計 (80人/340人)

大学院音楽研究科（（ ）内は入学定員／収容定員）

修士課程

音楽学専攻	(3人／6人)
宗教音楽学専攻	(2人／4人)
声楽専攻	(3人／6人)
器楽専攻	(12人／24人)
合計	(20人／40人)

博士後期課程

音楽専攻	(3人／9人)
------	---------

2017年5月1日現在における在籍学生数は、次のとおりです。

音楽学部

(単位：人)

大学院音楽研究科

(単位：人)

	1年	2年	3年	4年	計
音楽文化学科	10	15	20	6	51
演奏学科	47	42	43	52	184
計	57	57	63	58	235

	1年	2年	3年	計
修士課程	24	18		42
博士後期課程	0	0	3	3
計	24	18	3	45

④教職員

2017年5月1日現在における教職員の状況は、次のとおりです。

学長	教授	准教授	専任講師	助教	専任教員計	兼任講師	専任職員	兼任職員
1	10	11	7	2	31	112	20	5

平均年齢 専任教員：49.8歳 専任職員：48.8歳

⑤役員・評議員

2017年5月25日現在における役員・評議員の状況は、次のとおりです。

種別	寄附行為の規定（選任条項）	定員	現員	氏名(敬称略)	
理事	第5条 第12条	(1)学長	1	1	川野祐二
		(2)評議員	2～3	3	中村英昭、山城宏樹、作道宗三
		(3)学識経験者	1～2	1	前田万葉
		(4)イエズス会日本 管区長の推薦者	1	1	ヴィタリ、ドメニコ
合計		5～7	6		
監事	第5条、第13条	2～3	2	大林泰人、三好彰	
合計		2～3	2		
評議員	第17条 第2項 第21条	(1)法人の職員	2～3	3	山城宏樹、馬場有里子、柴田美穂
		(2)学校卒業生	2～3	2	永岡敏彦、森佳代子
		(3)理事互選	5～7	5	川野祐二、中村英昭、作道宗三、前田万葉、ヴィタリ、ドメニコ
		(4)学識経験者	6～7	6	木阪信子、三島豊、市川太一、祇山登、伴谷晃二、村上健
合計		15～20	16		

2. 事業の概要

(1) 大学経営の取組み

① 学生数確保・入学定員維持への取組み

本学の経営は前年度同様、収支決算の数値においては高い評価を受ける結果となりました。しかしながら、新入生数については、厳しい状況が続いています。

少子化による 18 歳人口が再び減少し始める「2018 年問題」への対策として、来場者及び参加者を増やす目的で、オープンキャンパス及び各地で開催する進学ガイダンスについて、プログラムを修正・充実させました。初めての試みとして 10 月の祝日（月曜日）に、大学の授業・レッスンを公開する新たなオープンキャンパスを設けました（後述）。

文部科学省大学設置基準では、本学に必要な専任教員数は 17 人ですが、2018 年 4 月現在で 32 人となっています。きめ細かな音楽の指導及び学生募集における専任教員の果たす役割は大きく、近年少しずつ増やしており、2017 年度は 2 人退職しましたが、3 人の採用を決定しました。さらに学校訪問を主として学生募集を担当する職員を音楽産業界から 1 人採用しました。

指定校推薦制度の推薦者数について見直しを行いました。前年度に開始した教育協定を結ぶ高等学校に対する「協定校奨学金」制度の活用及び女子学生寮（セシリアホーム）の寮費値下げ（後述）は募集活動に一定の成果が見られました。

② 70 周年事業

2018(平成 30)年に創立 70 周年を迎えます。2017 年度はそのプレ事業ともいうべきさまざまな取組みを行いました。

2017 年 8 月には、教職員学生総勢 137 名でドイツ演奏旅行を行いました。ベルリンでのヤング・ユーロ・クラシック音楽祭に招待され、ベルリンのコンツェルトハウスで演奏を行い、さらに広島市の姉妹都市でもあるハノーファーでも教会での演奏会を行いました。両会場ともに多くの聴衆の前での演奏でしたが、ベートーヴェン、シューベルトそして細川俊夫客員教授作曲の「ヒロシマ」と平和をテーマにした『星のない夜』を演奏し、好評を博しました。この事業は連携協定を結んでいる広島市及び NPO 法人「音楽は平和を運ぶ」から多額の助成を受けることができ、協定の主目的である音楽文化振興にも貢献しました。

セシリアホールのグランドピアノ（スタインウェイ）は 1979 年のホール完成時から使っており、経年による内部構造の劣化や音質の低下があり、教員からの強い要望もあって、70 周年を前にスタインウェイ社のコンサートグランドピアノを新規購入しました。今後はセシリアホールでの演奏会等多くの機会に美しい音色を響かせてくれるものと期待しています。

2016 年度に策定した長期計画において、はじめに大学の基本理念として、本学がカトリック大学、特にイエズス会の教育理念を基軸におく音楽教育を行うことを宣言しています。それに基づき、毎年ラテン語の歌詞による宗教合唱曲を委嘱する事業が 3 年前より実施されています。2017 年度は千原英喜氏の「Assumpta est Maria」がクリスマスコンサートで

初演されました。また本学は、第41回カトリック教育学会全国大会（テーマ：平和を希求するカトリック教育）の開催校となり、9月に行われました。基調講演（森重昭氏「一人ひとり自らの手で紡ぐ平和の意味」）については、教職員研修の一つに位置付けました。

③女子学生寮の改修及び寮費改定について

女子学生寮の入寮者が減少している状況を鑑み、入寮希望者の増加と寮生の満足度向上のために様々な対策を講じました。まず、老朽化した施設設備のリニューアルを図るため、エレベータの基盤を更新、一部の部屋の内装改修とエアコンの更新、建物外壁の改修を行いました。また、学生が居住する民間施設の賃料等を比較し、思い切った寮費の値下げを行いました。寮費を年額（48万円）で設定し、毎月7万9千円だった寮費月額を4万円（3食付き、日祝日は朝食のみ）に改定しました。入寮条件についても、大学院生、留学生にも広げました。その結果、2018年4月の入寮者が増加しました。学生の寮生活の充実のために、寮母に対する教育及び寮運営の改善を行ってまいります。

④認証評価の取組み

2017年度は、2010年度に大学評価基準を満たしているという認定を受けた認証評価から7年目に当たり、2度目の認証評価受審となりました。2010年度以降毎年、自己評価・FD運営委員会では、複数の評価基準ごとの自己点検評価をまとめる形で、すべての評価基準についての点検評価を行い、自己点検評価書を作成してきました。今年度はこれを最新のデータとともに集大成を行い、2017年6月に外部評価機関である日本高等教育評価機構に『平成29年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書』として提出しました。

11月には、実地調査が行われ、その調査報告を経て、2018年3月に『エリザベト音楽大学 平成29年度大学評価機関別認証評価 評価報告書』が公開されるとともに、本学が大学評価基準を満たしているとの認定を受けました。本学ホームページには、『自己点検評価書』及び『評価報告書』が公表されています。

(2) 教学について

①教学改革について

2017年度事業計画では、学生支援ポータルサイトの更新、音楽コミュニケーションデザイン専修を音楽文化学科専修内の一領域とし、全学的に履修可能なカリキュラムを構築、教職課程のカリキュラムの再構築の3点をあげました。

学生支援ポータルサイトの更新については、これまで学生達がパソコンで履修登録をはじめとする教学関係の手続きを行っていたものが、スマートフォンでの対応が可能となり、あわせてセキュリティも強化されました。

カリキュラム編成上の改革として、音楽文化学科音楽文化専修内に新たに音楽コミュニケーションデザイン領域を新設し、音楽コミュニケーションデザイン専修の学科目を全学生が履修できるようになりました。その結果、2019年度より音楽コミュニケーションデザ

イン領域の学科目は新2年生の選択必修科目となり、履修科目の選択肢が増え、カリキュラム編成上の効果があがると考えられます。

教育職員免許法・同施行規則の改正に伴う、教職課程の再課程認定申請のため、教職課程に係る科目区分の大括り化・新規科目開設・コアカリキュラムの内容等をふまえた教職課程の再構築に取組み、2018年4月に申請書類を文部科学省に提出しました。

[音楽文化学科]

音楽文化専修では、ルーブリック評価（評価項目とレベルで学習到達度を示したもの）を試行的に活用し、学生の研究能力の向上を図りました。また、個人指導の柔軟な体制作りをめざし、主担当と副担当教員の連携指導を行いました。

幼児音楽教育専修では「動きと音楽」をテーマとして、幼児期の音楽教育について多角的視点から学生を指導しました。このテーマに取組んで3年目になり、講座内容の検討、丁寧な指導の結果、学生の音楽力が向上し、コンサートなど回数を重ね、対外的にもその音楽力を出せる状態になってきました。

音楽コミュニケーションデザイン専修では、社会貢献事業の充実と、学生の研究能力の向上を図りました。連携協定を結んでいる広島県・広島市・東広島市やNPO法人との事業の連携では、演奏会での演奏、アウトリーチ事業、音楽プロジェクトの企画制作の協力等学生が多岐にわたって活動し、あわせて研究能力の向上を図ることができました。

[演奏学科]

新たなカテゴリーの充実を図るためカテゴリー制度の修正を行いました。修正後、各専攻とも着実に効果が出始めています。また、2017年度は8月のドイツ公演の演奏の質を高めるべく合唱の授業やオーケストラ特別練習により指導を強化しました。ドイツに留学経験のある若手教員を中心に渡欧前の授業、練習の指導にあたり、学生教職員一体となった努力により、ドイツ公演は総じて高い評価を得て無事終了しました。

付属音楽園と提携して、園生への特別レッスンの充実、発展に取り組ましました。大学教員による園生へのレッスンは、希望する園生の増加、またレッスンを聴講することにより音楽園の若手指導教員の研修の場としても貢献しています。

社会への貢献を図ることを目指して、パフォーマンスフォーラムの授業など地域のニーズにあった公開講座を数多く開催しました。各講座は充実した内容でしたが、外部の参加者が少なく、今後の広報のあり方を学内で再検討し、より多くの学外者の参加を図ります。[大学院]

大学院教育充実の一環として行っている大学院公開講座については、2017年6月24日にロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団首席奏者を務め、ソリストの活動としても著名なフルート奏者、デニス・ブリアコフ氏によるフルート公開レッスンを開催しました。さらに、10月30日にも、パリの聖イグナチオ教会名誉オルガン奏者で、パリ・イエズス会大学教授を務めるフィリップ・シャルー神父による、J.S. バッハ作品のコラール技法に関する公開講座を開催しました。

海外からの留学生の積極的な受け入れのため、2017年度は、6月25、26日にサンタ・イ

サベル大学（フィリピン）、7月2、3日に四川音楽学院（中国）にて、それぞれ入学試験を実施しました。うち、中国からは7人、フィリピンからも2人が合格し、9月から入学しました。さらにタイからも、1人が本学で実施した入学試験を受けて合格し、同じく9月から入学しました。

また、春季入学試験（本学実施）の結果、社会人・留学生も含め、2018年度4月からの入学者として、12人を確保することができました。博士後期課程においても、5年ぶりに2人の合格・入学者を確保することができました。

大学院の魅力発信の取組みとして、成績優秀者への個人レッスン時間を1.5倍に増やすことを、2018年度前期より試行的に実施することを決定しました。今後も状況に応じて最適な運用のあり方を検討する予定です。

②学生生活支援

学生への連絡は、学生用ポータルサイト「イーチ」の活用がほぼ定着してきました。学生の自発行動を促す意味でもよい効果が期待されます。

より充実した学生支援のため、学生生活センター室長を中心に、ホームルーム担任、学生相談室や保健室の担当者、学生生活事務担当者間の連携を進め、面談や関係者間の連絡・情報共有により、個々の学生への指導、支援に力を注ぎました。

また、学力・演奏等において支援が必要な学生については、面接を行い、授業担当教員と連携して指導し、学習支援アシスタントによる個別指導を行う等により改善を図り、その成果も見えつつあります。

教職員が、要支援学生の状況を「気がかりな学生について」の連絡依頼等を通しての授業の欠席状況等から早めにリサーチすることにより把握でき、学生生活におけるトラブル、学生が抱える諸問題に、迅速かつ丁寧に対応し、問題解決に努めてきました。

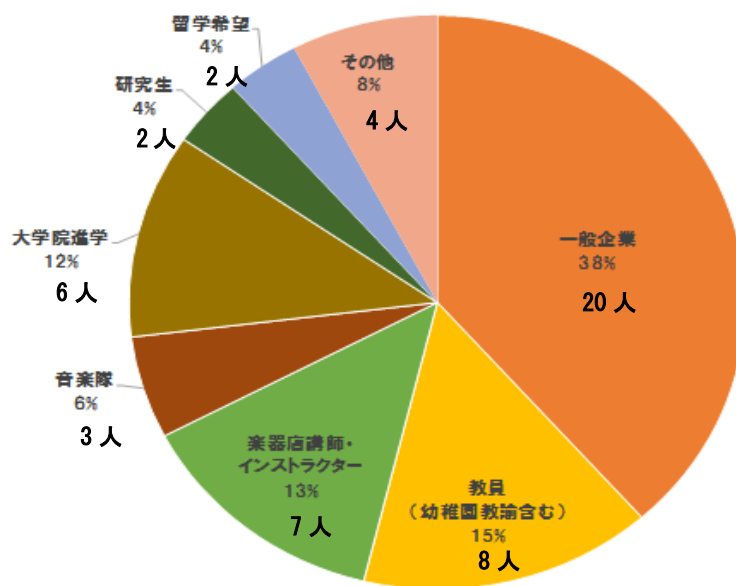
定期的に学生生活委員会を開催するほか、臨床心理カウンセラー、看護師、学生生活センター室長、学生生活事務担当者等関係者で連絡会を開いて情報交換をし、より迅速な対応を目指しました。特に、臨床心理カウンセラー（学生相談室）、看護師（保健室）による支援体制が定着し、学生の悩みや様々な相談へ対応が可能となると共に、学生の心のよりどころとなっています。

経済的支援については、奨学金制度利用と現状のバランスを注視し、奨学金受給学生がより充実した学生生活を送れるよう、充実改善を検討しました。また、受給学生については、前年度に引き続き面談・個別指導を実施し、健全な学生生活を送っているか把握し、意識の向上を促しました。さらに、貸与型奨学金（日本学生支援機構奨学金）受給学生を中心に進路指導を強化しました。

[就職・進学サポートについて]

学生生活センター室長、キャリア支援室長、キャリアサポート委員会、学生生活担当職員間で相互の連携を強化して、就職・進路サポートを行いました。

2017年度の進路状況の内訳は以下のとおりです。



大学生の一般企業への就職状況が好調な傾向は、本学においても同様であり、一般企業に就職する学生は例年 20 人程度となっています。その中には同じ企業から毎年採用が決まるケースも見られます。教員（広島県正採用、臨時採用、非常勤）については、年度により人数が大きく変わっています。就職及び進学支援を充実させた結果、学生の希望を満たす進路決定への指導ができています。

③国際交流について

本年度も様々な国際交流のプログラム活動を実施しました。

海外交流協定校に関わる活動

月	交流協定校	国	内容
4	チュラロンコン大学	タイ	交流協定締結。 同大博士後期課程学生と本学博士後期課程学生がザビエルホールで交流演奏。
6	サンタ・イサベル大学	フィリピン	同大学にて留学生入学試験実施。
7	四川音楽学院	中国	同大学にて留学生入学試験及びコンサート実施。
11	チュラロンコン大学	タイ	同大学にて留学生入学試験及びマスタークラス実施。
12	シュトゥットガルト音楽演劇大学	ドイツ	交流協定締結。
1	サント・トマス大学	フィリピン	2018「華麗なる広島ニューイヤーコンサート」（本学共催） サント・トマス大学オーケストラがゲスト出演。
3	サナタ・ダルマ大学	インドネシア	チャリティーコンサートに、修士学生 3 人が出演。

その他、次の活動を実施しました。

6月、ベルギー国エリザベト王妃コンクールに招待され、川野学長が訪問しました。その際、協定校のブリュッセル王立音楽院と、将来提携することを目指してエリザベト王妃音楽院を見学し、あわせて、2017年3月に本学を視察されたブラッケ下院議長を国会において表敬訪問しました。

8月、アジア・パシフィックイエズス会大学連盟会議(AJCU-AP)がチェン・ライ(タイ)で行われました。川野学長とアント専任講師が参加し、少数民族のためのイエズス会教育について協議を行いました。また、第25回東南・東アジアカトリック大学連盟総会(ASEACCU)が、アサンプション大学(タイ)にて開催され、川野学長ほか教職員4人が参加、「カトリック大学における包括教育:空間の改造、現場での促進、意識改革(“Catholic Educational Institutions and Inclusive Education: Transforming Spaces, Promoting Practices, Changing Minds”)」をテーマに話し合いを行いました。同学生会議には学生3人が参加しました。

2018年8月の第26回東南・東アジアカトリック大学連盟総会(ASEACCU)及び学生会議はエリザベト音楽大学で開催されることが決定し、教職員は準備を行っています。日本カトリック大学連盟内に、本学教職員を中心に実行委員会が結成され、1月には学内で委員会会議が開催されました。さらに同月、東南・東アジアカトリック大学連盟の理事会が本学で行われ、8ヶ国から委員が来学し、学内施設見学及び平和公園・宮島の視察も行いました。

70周年事業の一つであるドイツ公演におけるハノーファー市のプロテスタント教会では演奏のほか、原爆パネルの展示も行い、被爆体験伝承者である佐古季暢子講師が原爆の実相と被爆者の願いについてスピーチを行いました。

10月、ハノーファー女声合唱団と本学女声合唱団が交流演奏を行い、演奏後に、広島市長、広島ハノーバー友好協会会長他を来賓に迎えレセプションを開催しました。

12月1日より約2週にわたり、本学エントランスホールでアンネ・フランク パネル展が行われました。それに伴い、12月2日には、アンネ・フランク財団 東アジア担当のステファン・フェルファーカ氏による講演会を開催。講演会は同日に学内向けと学外向けの2回行われました。

同月、川野祐二学長と佐々木悠専任講師が、シュトゥットガルト音楽演劇大学(ドイツ)を訪問、本学との交流協定ならびに交換留学制度協定の締結調印式が行われました。本学にとってドイツの大学との初めての協定となりました。翌1月に行われた交換留学制度説明会には、12人が参加。本学学生の留学受け入れについての最終的な決定はシュトゥットガルト音楽演劇大学が行い、留学が決定すれば2018年の後期セメスターから、1ないし2セメスターの間、学ぶことができます。

その他、教員研修協定に基づき、四川音楽学院の若手教員2人を受け入れました。

④演奏活動

2017年度は、創立70周年に向けたプレ・イベントとして、8月25日に広島市の姉妹都市であるハノーファー、8月26日にはベルリンで行われたヤング・ユーロ・クラシック音楽

祭にてそれぞれオーケストラと合唱団による演奏会を行いました。10月11日にはハノーファー女声合唱団が本学を訪れ本学合唱団との合同演奏会をセシリアホールで行い、姉妹都市間の親睦を深めました。

通常のエリザベト音楽大学コンサートシリーズとしては、新任教員の演奏によるガラコンサートを日本産業退職者協会広島支部との共催として6月に実施し、非常に多くの来場者を迎えることができました。また、ドイツ公演のため行われなかった定期演奏会に代わり、本学ウインドアンサンブルによる吹奏楽特別演奏会を9月に開催しました。

12月に例年通り開催されたチャリティークリスマスコンサートではドイツ公演での演目も披露され、その収益金は東ティモール民主共和国の聖イグナチオ学院基金に寄附を行いました。同じ12月には「第九ひろしま2017」や世界平和記念聖堂におけるクリスマス・ミサへの合唱参加を実施しました。

その他、優秀な卒業生及び修了生を紹介する場として卒業演奏会と大学院新人演奏会(9月と3月)を開催しました。

各演奏会の詳細は次のとおりです。

2017年度エリザベト音楽大学コンサートスケジュール

日 程	演奏会名・行事名・会場・出演者	備考
6/23 (金)	教員によるガラコンサート (セシリアホール) ソプラノ：羽山弘子 小林良子 フルート：万代恵子 打楽器：小川裕雅 ピアノ：志鷹美紗 久保千尋	コンサート シリーズ①
8/25 (金)	ハノーファー公演 (ニーダーザクセン州音楽週間) (Neustädter Hof-und StadtKirche St. Johannis) 指揮：ジョナサン・ストックハンマー ソプラノ：小林良子 メゾソプラノ：藤井美雪	ドイツ 演奏旅行
8/26 (土)	ヤング・ユーロ・クラシック音楽祭 (コンツェルトハウス、ベルリン) 指揮：ジョナサン・ストックハンマー ソプラノ：小林良子 メゾソプラノ：藤井美雪	ドイツ 演奏旅行
9/26 (火)	吹奏楽特別演奏会 (セシリアホール) 指揮：井田勝大 テューバ：古本大志	コンサート シリーズ②
9/28 (木)	秋季大学院新人演奏会 (セシリアホール)	
10/11 (水)	ハノーファー女声合唱団・エリザベト音楽大学合唱団合同演奏会 (セシリアホール) 指揮：G. シュレーフェル、A. フェルバー、寺沢希	
12/2 (土)	チャリティークリスマスコンサート (セシリアホール) 指揮：井田勝大	
3/7 (水)	春季大学院新人演奏会 (セシリアホール)	
3/11 (日)	卒業研究発表・演奏会 (ザビエルホール) 卒業演奏会 (セシリアホール)	

⑤学生募集活動及び広報活動について

[学生募集について]

進学ガイダンスを学生募集重点エリア(山口県、九州、愛媛県)での 5 会場(防府市・下関市・中津市・福岡市・松山市)で実施しました。初めての開催となった中津市では地元の高校

音楽教諭と連携し、本学教員によるガラコンサートを開催しました。また、中津・福岡・松山の 3 会場ではガイダンス翌日に地元高校や楽器店などで教員による特別レッスンも実施し、出願見込み者の情報掘り起こしについて一助となりました。

年間をとおして実施する出前授業については、前年実施数 24 に対し 31 件の実績となり、高等学校の指導者や高校生とのつながりを深めることに役立ちました。

年 3 回のオープンキャンパス(6 月・7 月・8 月)に加え、10 月には初めて学内公開・授業公開を実施しました。オープンキャンパスの延べ来場者数は対前年 107%と伸び、高校 3 年生(受験学年)に対するサポートだけでなく、次年度の受験生の情報も取得できました。学内公開・授業公開は 48 人の来場者で、高校 3 年生の参加が目立ちました。これを受けて次年度も実施し秋のオープンキャンパスの位置づけで定着させることを目指します。

年度末の 3 月 24 日、25 日の両日、スプリングフェスティバルを実施しました。今回は、プロの弦楽カルテットによるワークショップや演奏会をフェスティバルのプログラムの中心に位置づけました。さらに、例年実施しているピアノ講習会では、本学教員によるレクチャーコンサートや外部講師によるバロックダンス指導など盛況でした。

これら様々な学生募集の取組みにおいて、志願者(受験見込み者)へのきめ細かな対応を心がけ、接遇対応といった面からも本学に対する信頼感や志望度を高めるよう留意しました。次年度以降に向けて、学生募集への取組みについては、イベントの開催時期や開催形態などさらなる工夫を凝らしていきます。

[情報発信・情報収集について]

教職員による高校訪問の充実強化の面では、訪問時の情報をスピーディーに共有し次のステップ(出前授業や特別レッスンなど)につないでいくことを心がけました。

各種 SNS 等による情報発信については、更新頻度の向上と内容の充実に向け、チーム内でオペレーション可能なスタッフを増やし、全員の意識向上も図りました。

学外で行われるコンクールや演奏会等などには、スタッフが積極的に訪問し、信頼性の高い情報取得を行いました。また、外部団体との関係深化にも努め、特に全日本ピアノ指導者協会(PTNA)や県合唱連盟、県吹奏楽連盟などの役員や事務局員とのコミュニケーションから、様々な情報やアイデアを引き出すことができました。

その他、各種イベントへの協力(フラワーフェスティバル、シャレオ大学生コンサート等)も積極的に行いました。広島市や広島県との包括協定に基づく行事(市役所ロビーコンサートなど)でも学生による演奏を披露し、本学の良い PR につながりました。

⑥教職員研修及び教職員評価について

SD の義務化を受けて、2017 年度 SD 実施の方針と計画を策定し、大学を支える人材の育成強化、組織の活性化のために教職員を対象に研修の機会を設けました。

大学創設者の名を冠した「ゴージェン記念講演」は、オリエンテーション期間中の 4 月 5 日に、専任教職員のみならず非常勤講師にも参加を呼び掛けて開催しました。講師は、法人理事・評議員でもあるカトリック・イエズス会祇園教会助任司祭の作道宗三神父で、「わた

しの受けたもの「音楽・信仰・イエズス会」というテーマで、カトリシズムに基づくイエズス会教育実践の場としての本学の歴史をたどりながら、自身の信仰の道を語られました。

毎年度後期開始の時期に行う教職員研修会は9月25日に開催し、午前中は特別講師の古屋晋一先生の講演「医工芸連携による持続可能な音楽文化の実現を目指して」を行いました。午後は2017年夏のASEACCUとドイツ公演の報告、2018年4月に申請書提出となる「教職課程再課程認定」を中心とした文部科学省の行政動向の解説、法人の財務報告、外部評価機関による認証評価受審についての説明がありました。

自己評価・FD運営委員会では、2017年度に行う日本高等教育評価機構に提出する『平成29年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書』を作成するために、委員は分担執筆し、委員会においてその内容の確認点検を行いました。6月には、データ集及び多くの資料とともに自己点検評価書を提出しました。2018年3月には、大学評価基準を満たしているとの認定を受けました。

教職員評価制度は過年度の試行を経て、2017年度には本格的に実行する予定でしたが、まだ、細部における理解が深められていない点もあり、引き続き、試行的な実施となりました。

(3) 管理について

① 土地・施設設備の概要

本学の現有土地・施設設備の状況は以下のとおりです。

建物 (単位:m ²)													
			新築年月日 (登記簿記載日)	教室	演習室 (レッスン室)	実習室 (自習室・ 院生研究室)	研究室	図書室	管理用	寄宿舎	その他	合計	
幟町学舎	旧神父館	鉄筋コンクリート造陸屋根鋼板葺4階建	1979/7/10 (2015/2/17)	53	14	33	17	0	291			408	
	1号館		1979/7/10	810	261	167	21		1,370			2,629	
	本館	鉄筋コンクリート造鋼板葺5階建	1982/8/31	188	59		148		845			1,241	
	2号館	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根・ステンレス鋼板葺9階建	1996/3/31	659	250	200	293	129	2,620			4,150	
	3号館	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	2016/8/31 (2017/3/27)	291	106	62	81	266	1,028			1,834	
	4号館		1989/8/31	276	18	395	0	188	762			1,639	
小計				2,276	709	858	559	583	6,916	0	0	11,901	
西条学舎	1号館	鉄筋コンクリート造ステンレス鋼板・スレート葺2階建	1987/7/24	729		0			670			1,399	
	2号館	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建	1964/12/31								243	243	
	3号館	鉄筋コンクリート造スレート葺平屋建	1987/7/24		70				55			125	
	4号館	木造瓦葺平屋建	1965/4/13								68	68	
	5号館	鉄筋コンクリート造スレート葺平屋建	1987/7/24	48					24			72	
小計				777	70	0	0	0	749	0	311	1,907	
学生寮(橋本町)	鉄骨鉄筋コンクリート造ルーフィング葺9階建		1985/1/30			0				2,431		2,431	
総合計				3,053	779	858	559	583	7,665	2,431	311	16,239	

* 赤で表示した数字は現在使用していない建物

土地(単位：㎡)

	校舎等	運動場	その他	寄宿舍	合計	備考
幟町学舎	4,890				4,890	うち借地 872
西条学舎	27,616	8,279			35,895	
学生寮				637	637	
合計	32,506	8,279	0	637	41,422	41,422

②施設設備の改修等

今年度は女子学生寮セシリアホームの外壁補修が学内施設改修の中心となりました。また、近年の特異な気象の影響もあり、学内各所の経年変化による空調設備の故障や建物に雨漏り・漏水が頻発したため、予定外の修繕工事が増えました。できる限り早急に補修を行い、快適な環境で教育・研究が行えるよう努めました。

2017年度に行った主な更新・改修工事関係は次のとおりです。

月	内 容
7月	4号館空調設備（チラー）等修理
8月	学生寮エレベータ制御盤更新工事
9月	本館4階研究室天井等修繕工事
10月	2号館エレベータ棟屋上防水修理
10月	1号館雨水配管清掃及び調査
10月	本館5階階段室屋上漏水補修工事
12月	学生寮外壁改修工事
3月	学生寮内装改修、エアコン更新工事
3月	本館1階空調設備更新工事

③付属音楽園

付属事業である付属音楽園では、音楽園と大学教育の連携を深める様々な取り組みを行うとともに園生募集のための活動に力を入れ、園生の数は前年度と比して増加となりました。

エクステンションセンターにおいても、年度計画にある講座及びレッスン指導の実施のみならず、ラインホルト・フリードリッヒ客員教授をはじめとする国内外からの実力のある指導者の特別レッスン等が生まれ、在学生及び卒業生等学外者に対しても充実したプログラムが実施されました。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表の状況

有形固定資産は、学生寮の外壁工事等を実施しましたが減価償却の範囲にとどまり、前年

度末比 85 百万円減少して、3,356 百万円となりました。

特定資産は、第 2 号基本金引当特定資産が 200 百万円の増加したものの、減価償却引当特定資産 408 百万円の減少などにより、前年度末比 233 百万円減少して 9,483 百万円となりました。その他固定資産は、有価証券（外貨）が 398 百万円増加しました。

流動資産は、現預金は 55 百万円減少したものの、有価証券の 304 百万円増加を主因として、前年度末比 221 百万円増加して、1,062 百万円となりました。

資産の部合計は前年度末比、300 百万円増加して、14,300 百万円となりました。

負債の部は、退職給与引当金 20 百万円の減少や前受金 4 百万円の減少などにより、22 百万円減少して、397 百万円となりました。

基本金は、第 1 号基本金への組入れ 44 百万円や第 2 号基本金の組入れ 200 百万円により 244 百万円増加して、12,432 百万円となりました。

繰越収支差額が 79 百万円増加して 1,471 百万円となり、基本金と合計した純資産額は 323 百万円増加の 13,903 百万円となりました。

財務基盤の充実化が図れました。

②収支計算書の状況

ア) 事業活動収支計算書

当年度の教育活動収入は、予算を 81 百万円上回り 658 百万円となりました。前年度比、20 百万円の減収となっています。

収入の主な内訳は、学納金が予算を 19 百万円上回り 453 百万円、経常費等補助金も予算を 30 百万円上回り 107 百万円、雑収入も予算を上回る 37 百万円となりました。

当年度教育活動支出は、予算を 36 百万円下回り 954 百万円となりました。前年度比、88 百万円の増加となっています。支出の主な内訳は、人件費が予算下回り 475 百万円、教育研究経費が予算を下回り 397 百万円、管理経費が予算を上回り 83 百万円となりました。

教育活動収支差額は、予算を 117 百万円上回りマイナス 296 百万円となりました。

教育活動外収入は、予算を上回り 497 百万円となりました。前年度比、29 百万円の増収となっています。

教育活動外収支差額は、予算を 22 百万円上回り 497 百万円となりました。

特別収入は、149 百万円となりました。前年度比、41 百万円の増収となっています。

特別支出は、予算を上回り 27 百万円となりました。前年度比、25 百万円の増加となっています。

特別収支差額は、予算を下回り 121 百万円となりました。

基本金組入前当年度収支差額は、予算を 187 百万円上回り 323 百万円となりました。

基本金組入後の当年度収支差額は、79 百万円となり、前年度繰越収支差額 1,392 百万円に加算し、翌年度繰越収支差額は、1,471 百万円となりました。

純資産の増加につながっています。

イ) 資金収支計算書

当年度の施設関係支出は、学生寮の外壁工事、E V工事など総額で24百万円となりました。

設備関係支出は、教育研究用機器備品の充実などにより30百万円となりました。

ウ) 活動区分資金収支計算書

教育活動による資金収支差額は、マイナス154百万円となりました。施設整備等活動による資金収支差額は、プラス153百万円となりました。その他の活動による資金収支差額は、マイナス54百万円となりました。これらにより、当年度支払資金は55百万円減少して、前年度繰越支払資金178百万円に減算して、翌年度繰越支払資金は123百万円となりました。

(2) 経年比較

① 貸借対照表

(単位：千円)

	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末	2017年度末
固定資産	11,609,352	11,589,456	12,364,432	13,158,719	13,238,443
流動資産	918,186	1,785,771	1,286,757	841,071	1,061,614
資産の部合計	12,527,538	13,375,227	13,651,189	13,999,790	14,300,057
固定負債	400,990	384,556	360,237	337,365	317,712
流動負債	140,860	107,536	78,571	82,477	79,780
負債の部合計	541,850	492,092	438,808	419,842	397,492
基本金	11,435,898	11,819,402	11,894,466	12,188,206	12,431,894
繰越収支差額	549,790	1,063,733	1,317,915	1,391,742	1,470,671
純資産の部合計	11,985,688	12,883,135	13,212,381	13,579,948	13,902,565
負債及び純資産の部合計	12,527,538	13,375,227	13,651,189	13,999,790	14,300,057

② 収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
学生生徒等納付金収入	582,449	543,800	494,484	483,203	453,317
手数料収入	7,229	6,765	6,639	7,079	7,287
寄付金収入	5,160	111,099	33,536	2,417	12,030
補助金収入	117,657	65,260	69,811	89,961	107,087
資産売却収入	1,642,849	2,100,332	1,532,470	725,319	807,856
付随事業・収益事業収入	44,296	40,525	38,672	39,222	41,267
受取利息・配当金収入	441,954	469,881	500,033	467,985	496,915

雑収入	7,356	22,486	28,055	36,253	17,358
借入金等収入	50,000	35,000	20,000	10,000	0
前受金収入	114,587	94,772	68,040	72,124	68,059
その他の収入	1,140,950	1,296,327	1,008,805	654,375	826,690
資金収入調整勘定	△233,136	△115,572	△115,296	△95,306	△72,862
前年度繰越支払資金	209,699	176,356	334,602	559,245	177,697
収入の部合計	4,131,050	4,847,031	4,019,851	3,051,877	2,942,701

支出の部	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
人件費支出	473,946	485,189	489,218	487,255	474,707
教育研究経費支出	249,067	231,003	274,300	225,371	272,517
管理経費支出	62,183	52,502	59,394	59,933	68,851
借入金等利息支出	1,893	44	9	9	0
借入金等返済支出	116,660	35,000	20,000	10,000	0
施設関係支出	117,999	3,254	559,602	411,035	24,122
設備関係支出	9,516	44,946	7,944	64,799	29,720
資産運用支出	2,911,310	3,621,187	2,028,116	1,601,816	19,939,868
その他の支出	40,023	56,439	30,906	20,882	21,053
資金支出調整勘定	△24,902	△17,135	△8,884	△6,920	△11,104
翌年度繰越支払資金	176,356	334,602	559,246	177,697	122,967
支出の部合計	4,134,051	4,847,031	4,019,851	3,051,877	20,942,701

イ)活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科目	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	768,056	794,062	671,196	658,136	638,346
教育活動資金支出計	785,196	768,694	822,912	772,559	816,075
差引	△17,140	25,368	△151,716	△114,423	△177,729
調整勘定等	△79,937	45,037	△46,952	△4,749	23,350
教育活動資金収支差額	△97,077	70,405	△198,668	△119,172	△154,379
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	454,275	681,352	637,216	346,333	442,594
施設整備等活動資金支出計	1,032,923	422,344	1,332,814	1,058,401	288,732
差引	△578,648	259,008	△695,598	△712,068	153,862
調整勘定等	0	0	0	0	0

施設整備等活動資金収支差額	△578,648	259,008	△695,598	△712,068	153,862
小計（教育活動資金収支差額 施設整備等活動資金収支差額）	△675,725	329,413	△894,266	△831,240	△517
その他活動による資金収支					
その他活動資金収入計	2,794,124	3,144,663	2,423,109	1,490,822	1,661,600
その他活動資金支出計	2,144,065	3,313,609	1,303,282	1,040,757	1,719,136
差引	650,059	△168,946	1,119,827	450,065	△57,536
調整勘定等	△7,677	△2,221	△918	△373	3,323
その他活動資金収支差額	642,382	△171,167	1,118,909	449,692	△54,213
支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）	△33,343	158,246	224,643	△381,548	△54,730
前年度繰越支払資金	209,699	176,356	334,602	559,245	177,697
翌年度繰越支払資金	176,356	334,602	559,245	177,697	122,967

ウ) 事業活動金収支計算書

(単位：千

円)

科目		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	582,449	543,800	494,483	483,203	453,317
	手数料	7,229	6,765	6,639	7,079	7,287
	寄付金	5,160	121,899	33,536	3,786	12,030
	経常費等補助金	117,657	65,260	69,811	89,961	107,087
	付随事業収入	37,806	39,486	38,463	39,222	41,267
	雑収入	10,356	22,486	28,055	36,253	37,011
	教育活動収入計	760,657	799,696	670,987	659,504	657,999
	事業活動支出の部					
	人件費	457,889	468,756	464,899	464,382	474,707
	教育研究経費	330,834	316,418	359,931	328,397	396,963
	管理経費	69,244	64,639	72,660	73,201	82,580
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	857,967	849,813	897,490	865,980	954,250
教育活動収支差額	△97,310	△50,117	△226,503	△206,476	△296,251	
教育活動外	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	441,954	469,881	500,033	467,985	496,915
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	441,954	469,881	500,033	467,985	496,915
事業活動支出の部						

収 支	借入金等利息	1,893	44	9	10	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	1,893	44	9	10	0
	教育活動収支差額	440,061	469,837	500,024	467,975	496,915
特 別 収 支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	210,691	509,702	79,050	108,152	149,112
	その他の特別収入	530	69	0		
	特別収入計	211,221	509,771	79,050	108,152	149,112
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	27,239	32,044	23,325	2,085	26,428
	その他の特別支出	0	0	0	0	732
	特別支出計	27,239	32,044	23,325	2,085	27,160
	特別収支差額	183,982	477,727	55,725	106,067	121,952
	基本金組入前当年度収支差額	526,733	897,447	329,246	367,566	322,616
基本金組入額合計	△ 313,713	△ 383,504	△ 75,064	△ 403,719	△ 243,741	
当年度収支差額	213,020	513,943	254,182	△ 36,153	78,875	
前年度繰越収支差額	336,770	549,790	1,063,733	1,317,915	1,391,742	
基本金取崩額	0	0	0	109,980	54	
翌年度繰越収支差額	549,790	1,063,733	1,317,915	1,391,742	1,470,671	

(参考)

事業活動収入計	1,413,832	1,779,348	1,250,070	1,235,641	1,304,026
事業活動支出計	887,099	881,901	920,824	868,075	981,410

(3) 主な財務比率比較

比率名	算式	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	37.26%	50.44%	26.34%	29.75%	24.74%
	事業活動収入計					
基本金組入後収支比率	事業活動支出	80.64%	63.18%	78.37%	104.35%	92.56%
	事業活動収入計-基本金組入額					
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	48.43%	42.83%	42.23%	42.86%	39.25%
	経常収入					
人件費比率	人件費	38.07%	36.92%	39.70%	41.19%	41.10%
	経常収入					
教育研究経費比率	教育研究経費	27.51%	24.92%	30.74%	29.13%	34.37%
	経常収入					
管理経費比率	管理経費	5.76%	5.09%	6.20%	6.49%	

	経常収入					7.15%
流動比率	流動資産	651.84%	1660.63%	1,637.70%	1,019.76%	1,330.68%
	流動負債					
負債比率	総負債	4.52%	3.82%	3.32%	3.09%	2.86%
	純資産					
純資産構成比率	純資産	95.67%	96.32%	96.79%	97.00%	97.22%
	負債+純資産					
基本金比率	基本金	100%	100%	100%	100%	100%
	基本金要組入額					
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額	-12.79%	-6.27%	-33.76%	-31.31%	-45.02%
	教育活動資金収入計					

(注)「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

(4) その他

①有価証券の状況

区分	銘柄 数量	帳簿価格 (千円)	時価 (千円)	表示科目	摘要
債券	外国債券 84 口	7,940,182	8,193,307	第3号基本金引当特定資産ほか	
	外国債券 6 口	528,947	546,493	有価証券	翌年度満期
	円貨債券 1 口	50,000	50,510	減価償却引当特定資産	
株式	国内株式 24 銘柄	1,616,894	2,614,549	第3号基本金引当特定資産ほか	
投資信託	なし				
貸付信託	なし				
その他	上場 REIT 4 銘柄	269,917	377,514	減価償却引当特定資産ほか	
	外貨 MMF ほか	407,188	384,834	有価証券ほか	
計		10,813,128	12,167,207		

②借入金の状況

該当なし

③学校債の状況

該当無し

④寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額(千円)	摘要
奨学資金ほか	後援会ほか	12,030	

⑤補助金の状況

私立大学等経常費補助金のみ
 一般補助 97,732 千円(昨年比 1.18)
 特別補助 2,326 千円(昨年比 0.34)

⑥収益事業の状況

該当なし

⑦関連当事者との取引状況

該当なし

以上、法人の概要、事業の概要及び財務の概要について報告いたしましたが、これから本学にとってまだまだ厳しい状況が続くことが予想されます。今後も、大学教育研究の充実、経営基盤の確立に向けて、教職員一丸となり、日々努力してまいります。皆様のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。